

# Hemophilia in the World Today

vol.2



## 治療を受けている血友病患者は世界のごく一部

血友病患者さんは、止血に必要な血液凝固因子が生まれつき不足しています。そのため、出血時の止血や、出血の予防のためには、血液凝固因子製剤の投与が必須です。ところが、世界血友病連盟 (World Federation of Hemophilia: WFH) の報告によると、世界で約47万5千人いると推定され

ている血友病患者さんのうち、血液凝固因子製剤による治療を受けられているのは約5万7千人にすぎません<sup>1)</sup>。発展途上国の血友病患者さんの多くが、製剤の投与を受けられないために、成人するまでに命を落としてしまったり、繰り返す関節内出血による重い関節症に苦しんでいるのが現状です。

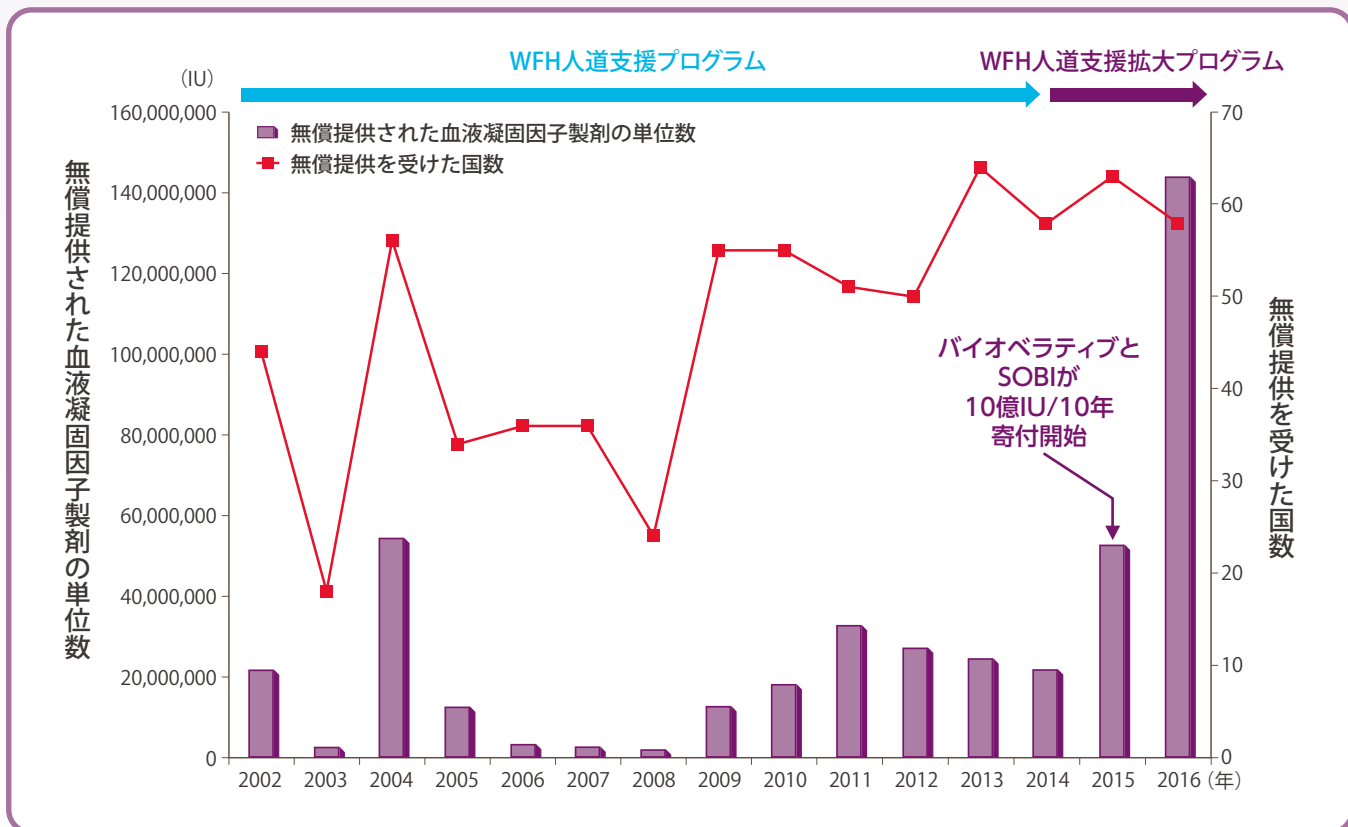


## バイオベラティブとSOBIの寄付をきっかけに、WFH人道支援プログラムが拡大

WFHは人道支援プログラム (Humanitarian Aid Program) により、1996年以降の20年にわたって、発展途上国の血友病患者さんに3億国際単位 (IU) を超える血液凝固因子製剤の無償提供を行ってきました。バイオベラティブとSOBIは同プログラムに賛同し、2015年以降の10年間で10億IUの製

剤を無償提供することを表明しました。これによって、無償提供される製剤の単位数の予測がしやすくなり、WFH人道支援拡大プログラムの開始につながりました。2016年には、これまでの単位数を大きく上回る製剤が無償提供されています。

■ WFH人道支援プログラムによる2002～2016年の無償提供<sup>1)</sup>



<sup>1)</sup> Pierce GF, et al.: *Haemophilia*. 2018;24:229-235より改変



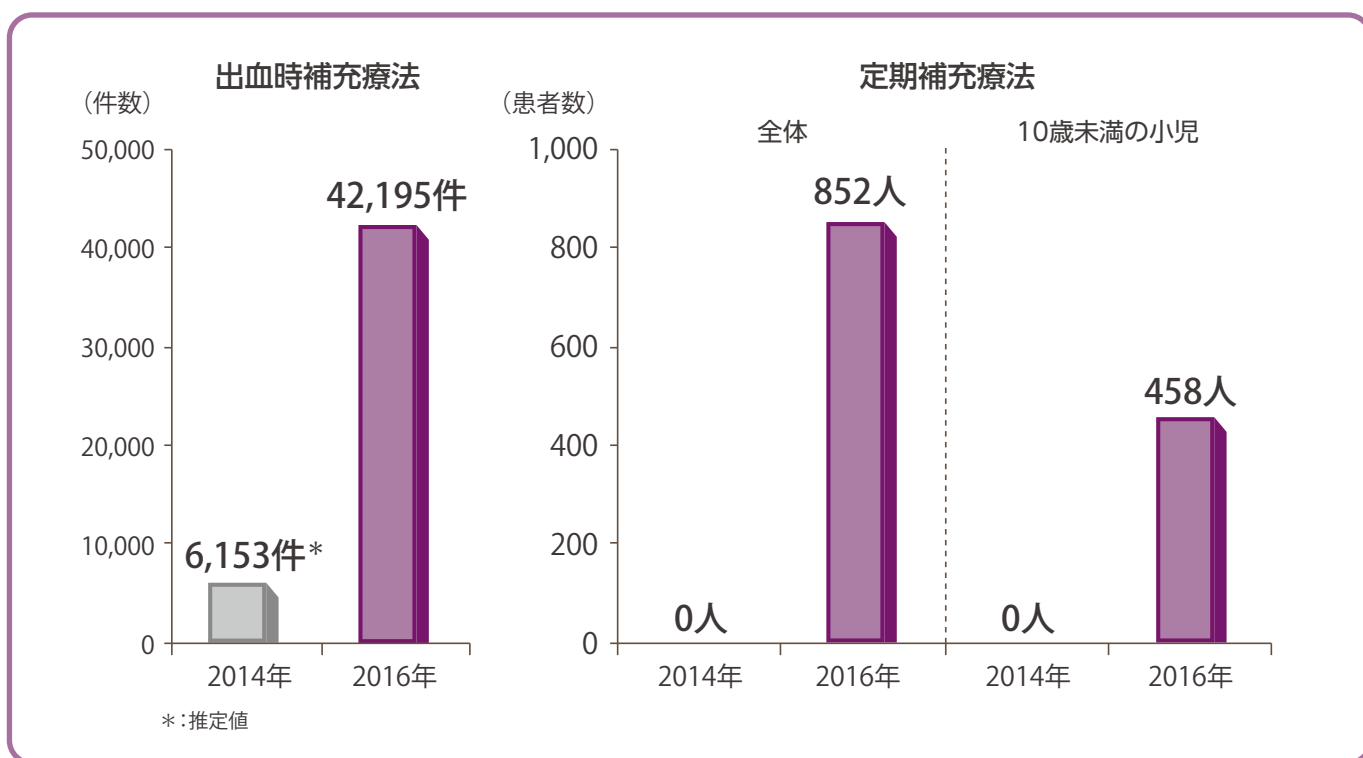
## 発展途上国の血友病患者さんにも定期補充療法を

血友病患者さんは、出血時補充療法(出血時に止血のために血液凝固因子製剤を投与する)のみでは関節症を予防することはできません。健康な関節を保ち、QOL(生活の質)を向上させるためには、定期補充療法(出血頻度を減らすために定期的に製剤を投与する)を実施することが重要です。また、定期補充療法により関節症を予防することができれば、関節症の管理にかかる高いコストを削減することができるため、長い目で見ると、定期補充療法と出血時補充療法にかかる費用はほぼ同様となる

ことが報告されています<sup>1)</sup>。

2015年に開始されたWFH人道支援拡大プログラムにより、2016年には、出血時補充療法の件数が前々年の約7倍に増加したばかりか、定期補充療法を実施した患者さんも、ゼロから852人に増加しています<sup>1)</sup>。出血時補充療法だけでなく、定期補充療法をさらに普及させるために、より多くの企業団体の協力が望まれます。

### WFH人道支援プログラムによる出血時補充療法、定期補充療法<sup>1)</sup>



1) Pierce GF, et al.: *Haemophilia*. 2018;24:229-235より作図

患者さん・ご家族の方、医療従事者向け

参加無料Webセミナー

ヘモフィリアToday! Webセミナー 開催のご案内

## 『知る』ことから始めてみませんか? 世界の血友病事情のいま

本セミナーでは、世界の血友病治療格差の実状と、その格差をなくすべくWFHが行っている人道支援プログラムについてご紹介します。ぜひご参加ください。

**日時** 2018年12月12日(水) 20:00~20:30

**演者** 国立病院機構大阪医療センター 感染症内科  
西田 恭治 先生

### 参加方法

ヘモフィリアtodayにアクセス

[ <https://www.hemophiliatoday.jp/> を入力 ]  
または「ヘモフィリアToday」で検索



「ヘモフィリアToday! Webセミナー」案内のバナーをクリック

